

1. 対象 第2学年4組(普通科文型クラス)男子18名 女子21名 計39名
2. 日時 平成19年11月7日(水) 第5限(13:20~14:10)
3. 場所 数学演習室
4. 教材 PRO-VISION ENGLISH COURSE Ⅱ(桐原書店)
5. 単元 Lesson 6 (Genetically Modified Foods)
6. 単元設定の理由

英語Ⅱでは、語彙および語法の理解から始め(input)、フレーズリーディングやパラグラフリーディング及び様々な音読活動による言語材料の理解や本文の概要把握、言語材料の内在化(intake)、及び内在化した言語材料等を適宜使って自己表現させる活動(output)を中心に指導している。この単元のテーマは、遺伝子組み換え食品についてであるが、それは、効率よい食料確保という利点がある一方で、安全性や環境の与える影響が懸念されるという問題が存在する。それに関する記事を読み、その内容を理解し(input)、そこで習得した表現を使って、単元の内容及び自分が興味を持ち調べたことについて簡単なプレゼンテーションをさせたい(intake,output)。将来、英語を使ってプレゼンテーションできる積極的な意欲や態度を培わせ、論理立てて聞き手を納得させられるような発表を心がけさせたい。

7. 単元目標

- 1 新出単語の発音等を含めた確認と主な語法の理解をさせる。(input-intake)
- 2 各パートの内容をトップダウン式に聞き(sight-listening)、読ませ(sight-translation)、概要を把握させる(scanning, skimming)、予測可能な語句については自力で推測・理解させる。(input-intake)
- 3 様々な音読活動や通訳訓練法(英語から日本語へ、日本語から英語へ)を通して言語材料の内在化を図る。
(intake)
- 4 既習の表現を使い、論理的な展開を考慮しながら、本文の内容を端的に英語でまとめさせる。(intake)
- 5 既習の表現を使い、論理的な展開を考慮しながら、本文の内容を英語で発表させる。(intake)
- 6 自ら考察した内容を、本文の構成・展開に沿って、英語で発表させる。(output)
- 7 英語でのプレゼンテーションの方法を身に付けさせる。また active listener としてプレゼンテーションに参加する態度もあわせて身に付けさせる。(output)

8. 単元計画指導

- | | |
|----------------|--|
| 第1時限目 | 1. Pre-Reading として、口頭で遺伝子組み換え食品について、Q&Aを行う。
2. 語彙・身につけたい表現の確認と発音等音声指導を行う。 |
| 第2時限目 | 1. 本文の全体を skimming し、各 part の題名や働きを考えることで全体像をみさせる。
2. 各 part のあらすじを日本語で書かせる。 |
| 第3時限目 | 1. Part 1 の内容理解をさせる。(Q&A, sight-listening, sight-translation・音読活動・文法等) |
| 第4時限目 | 1. Part 2 の内容理解をさせる。(Q&A, sight-listening, sight-translation・音読活動・文法等) |
| 第5時限目 | 1. Part 3 の内容理解をさせる。(Q&A, sight-listening, sight-translation・音読活動・文法等) |
| 第6時限目 | 1. Part 4 の内容理解をさせる。(Q&A, sight-listening, sight-translation・音読活動・文法等) |
| 第7時限目 | 1. テーマに関連した会話文を聞いて書き取る。(教科書 CONVERSATION)
2. 本課で扱われた語彙・文法等を整理し、言語材料の使い方を学ばせる。(教科書 LANGUAGE WORKSHOP)
3. キーワードを用い、内容全体を口頭で要約をさせる。(ペア活動からクラス全体の活動に展開)
4. キーワードを用い、自分の表現を使って要約を書かせる。 |
| 第8時限目 | 1. プレゼンテーションのペアを決め、与えられた構成に従い、プレゼンテーションの原稿を書く |
| 第9時限目 | 1. プレゼンテーションに向けパワーポイントを用いたスライドを作成する。 |
| 第10時限目
(本時) | 1. ペアごとに、プレゼンテーションをさせる。
2. それぞれのプレゼンテーション内容を聞き取り、メモをとらせ、質問やコメントを言わせる。
3. プレゼンテーションの評価をさせる。 |
| 第11時限目 | 前時と同じ |

9. 本時の目標

- 1 大きな声・アイコンタクト・ジェスチャーなどに留意して、積極的でコミュニケーション的なプレゼンテーションを目指す
- 2 原稿の表現を丸暗記するのではなく、内容を覚えて自分の言葉として発することを心がける
- 3 発表を聞いて評価し、コメントを付け加えるなどより積極的な聞き手としての態度を養う。

10. 2年4組生徒の実態・生徒観

本校の普通科文型クラスは3クラスあり、1つは英語コース(5組)、3・4組は普通類型文型のクラスである。2年4組の生徒は、主に人文科学・社会科学分野の4年制大学に進学を志望しているごく普通の文系クラスである。1年次は英語Ⅰ(4単位)・OCⅠ(2単位)を履修し、2年次は英語Ⅱ(4単位)・ライティング(2単位)を履修している。文系とはいえ、英語を得意とする者もいれば、苦手意識をもつ者もいる。日頃からペアワークやグループワークを多く取り入れており、生徒たちは積極的に取り組んでいるが、クラス全体に対する発言は、自信がない、恥ずかしいなどの理由で消極的になりがちである。

1.1. 本時の展開

過程	教師の指導内容	指導形態	生徒の学習活動	指導上の注意	教材	評価
導入 5分	1.本時のプレゼンテーション活動の内容を指示する 2.評価についての説明をする	一斉	教師の話を聞きスムーズにプレゼンテーション準備に移れるようにする	1. プレゼンテーションの要領を把握させ、積極的な聞き手としての態度を理解させる 2. 評価の公平さを伝える	1. 評価シート (2. 自己評価シート)	
展開 40分	プレゼンテーション各プレゼンテーション後、必要に応じて質問・フィードバック等する。コメントをする生徒を募る。		発表する生徒 1.ペアで準備してきたスピーチを、パワーポイントを利用して、発表する 発表を聞く生徒 1.発表者を評価する。 2.感想やコメントを言う。	1.発表者が速やかにプレゼンテーションを始められるよう進行する 2. プレゼンテーション後は、自由な意見が出るように工夫する 3. プレゼンテーションを積極的に聞き、評価できる雰囲気をつくる。		積極的にプレゼンテーションをし、聴こうとする態度など直接評価 聞き手による直接評価 発表者による自己評価
まとめ 5分	1.プレゼンテーション活動に対する簡単なフィードバックをする 2.評価済みの評価用紙についての指示をする		教師の話を聞き自分たちのプレゼンテーションを振り返り、翌日の発表者は改善すべき点を確認する	プレゼンテーションで良かった点、改善すべき点を具体的に指摘する		

1.2. 評価

評価対象・分野	学習内容	学習活動における具体的評価基準等		
		到達目標	観点別評価基準	努力を要する生徒への支援
単語テスト (計4回)	既習した英語表現や語彙	- 制限時間内に30の日本語を英語に書き換える - 毎回20点以上、4回合計80点以上を採る。	知識・理解 1. 4回分合計80点以上ならば合格とする。	不合格の生徒は、合格するまで再テストを課す。
リーディング	1. パート毎にあらすじを書く 2. 「予習復習ノート」に取り組んでいる	1. 文章の大意を把握し、構成全体を見ることができる 2. 設問に自力で取り組むことができる	理解の能力 A: 優良 B: 可 C: 不可	生徒の取組状況を見て、適宜援助する
リスニング	1.Q & A 2.CONVERSATION の聞き取り	1.質問の意味を理解できる 2.書き取りができる	理解の能力 できているか否か	生徒の取組状況を見て、適宜援助する
スピーキング	Q&A, sight-listening, sight-translation・音読活動	学習内容全体において -積極的に英語を用いて役割を果たすことができる -積極的に発表ができる	関心・意欲・態度 積極的にできているか否か	机間遵守しながら、適宜援助をする
ライティング	1.本課の要約を書く 2.プレゼンテーションの原稿を書く	1.既習の語彙・表現や自分で工夫した表現を用いて要約できる 2.与えられた構成に基づいた筋道の通った原稿が書ける。	表現の能力 A: 優良 B: 可 C: 不可	1.添削して課題を返却。良い作品は全体で紹介。共通する誤りは授業で指摘する。 2.添削やコメントをつけて返却する。
プレゼンテーション	ペアで書いた原稿をもとにパワーポイントを用いたプレゼンテーションをする	1.大きな声・アイコンタクトなどに留意して、積極的なプレゼンテーションができる 2.発表を聞いて評価し、コメントを付け加えるなどより積極的な聞き手として取り組むことができる。	1.表現の能力 教師・聞き手による直接評価 発表者自身による自己評価 2.コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コメント等が積極的に言えるかどうか 聞き手自身による自己評価	1.良かった点や改善点など今後に向けてのアドバイスを書いた評価用紙を返却する。自己評価により自己分析する 2.自己評価により、自分の取り組み姿勢を認識させる。